

映画を用いた外国語授業

—高等学校ドイツ語授業における使用可能性を探る—

発表者：小池駿 (Sprecher: KOIKE Shun) shun.ko.0709@gmail.com

Das 13. Symposium von JACTFL (am 9. März. 2025)

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

1. 発表の目的

- 発表の目的：高等学校ドイツ語授業における映画使用の可能性の考察.
- きっかけ
 - ：私の勤務先の授業で「映画を用いた授業をしてほしい」と要望があり、実行を試みたことから。
 - 理論化されていない域のため、考察を行い、発表する意義はある。
 - *プライバシー保護（特に学習者）や研究倫理規定等に配慮した結果、当初の発表構想から変更が発生しました。

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

2. 先行研究レビュー

2.1. 中等教育課程での映画

- ▶ 全般的に複数の教科で映画の教材利用が報告。
→外国語科とそれ以外の教科とで目的が異なる。
- ▶ 外国語科の場合：英語科. 聴解利用の傾向またはその先の産出活動の導入で。
例) ・菊地・中山(2006)...映画の台詞のディクテーション。
・小澤・幡山(2009)...オリジナル音声での視聴経験の有効性。
・須田(2015)...作品の紹介スピーチの実践. 大変盛り上がったそう。
- ▶ それ以外の教科：単元の導入部で使用される傾向。
例) ・長谷川 (2018) ...中学理科、岩波映画「力のたし算」
・阿部・池田 (2019) ...高校3年生の道徳、映画「ジョンQ」
・長 (2020) ...高校2年生、理社横断型、映画「天気の子」

2. 先行研究レビュー

2.2. ドイツ語教育での映画

- 対象の学習者：いずれも学習歴が最低1年以上ある大学生.
 - 例) ・ 佐藤(1998)：学習者が映画『ベルリン・天使の詩』の台詞を暗誦
 - ・ 山室(2017)：既知の素材（『魔女の宅急便』）を用いて未知である語句や口頭表現を学習
 - ・ 吉満(2018)：吉満(2017：316)が映画をきっかけとした具体的なタスク設定の必要性を提唱。それを踏まえた実践。映画『顔のないヒトラーたち』の台詞を読み解く行為を通じた読みの動機づけを確認
- 目的：知識・技能中心.
- 管見の限り、高等学校ドイツ語教育での実践例が見当たらない.

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

3. 授業で用いるには

3.1. 高等学校ドイツ語科目の立ち位置

- ▶ 1) 開設する高等学校等の数の少なさ

... JACTFL(2023)による調査：

英語以外の外国語の開講する高等学校等の数 ... 5145校中682校

ドイツ語に限れば134校にまで限定。

- ▶ 2) 習熟度・・・高校入学時点で5年も学んでいる英語と同じにできない
「基本的な言語材料を扱い、生徒の習熟の程度に応じた言語活動を行う
よう適切な配慮」（文部科学省2018：122）を前提とした授業設計
→能力（知識・技能）一辺倒ではなく、価値の側面が重要。

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

3. 授業で用いるには

3.2. 目的の具体化

- 現行の学習指導要領の「学びに向かう力・人間性等」を参照。
「 [...] 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」
(文部科学省 2018 : 14、下線部は発表者による強調)
→ 「相手の外国語の文化的背景によって「配慮」の仕方が異なってくる」
(同15)
→ 「相手への配慮」の一つとしての文化の理解 → 「文化」とは？

3. 授業で用いるには

3.2. 目的の具体化

- ▶ 「文化」とは？ * 目に見えるものだけが「文化」とは限らない。

— 慶應義塾大学編(2024)「外国語の授業づくりの手引き」を参照。

「言語・文化の多様性に着目して捉え、目標言語や既習言語・自言語、およびそれとむすびついた文化について、多面的・多角的に見たり、自分で「気づき」を得たりするとともに、課題を発見したりする力、他者を尊重する態度、「学び」の学び、メタ認知能力などを養うこと」（慶應義塾大学2024：10）

- ▶ **学習者自身が習得済みの情報を駆使し、未知の内容に対する「課題を発見」すること。**
- ▶ **この未知の内容が分野横断的なものでも良いのでは？**

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

3. 授業で用いるには

3.3. CEFR-CVに見る

- そもそもCEFR-CV(2020)とは：

- ・ CEFR(2001)の改訂版、「わかりやすさ」が増した。
 - 共通参照枠の細分化（Pre-A1、A2+/A2.2の新設...）
- ・ 仲介(Mediation)という言語活動の概念がより詳細化.

- CEFR(2001)での「仲介」... 「言語活動」のうちの1つ.

「何らかの理由で直接の対話能力を持たないもの同士」が、「単にお互いを直接に理解できない対話者間—（常にというわけではないが）通常は異なる言語の話し手—の仲介者」として情報を伝達し、また、「入力も出力のテキストも第一言語や第二言語で話されたものであったり、書かれたものであったりする」(CEFR2001=2014：106)

3. 授業で用いるには

3.3. CEFR-CVに見る

→CEFR2001で既に、異言語間の仲介（通訳や翻訳）に限定せず、
同言語間での仲介（要約や言い換え）に言及。

*ただし、具体的な尺度については不完全。

- ▶ 仲介(Mediation) :
* CEFR-CVは、
コミュニケーション
の際の関係性を整理。
(右側参照)

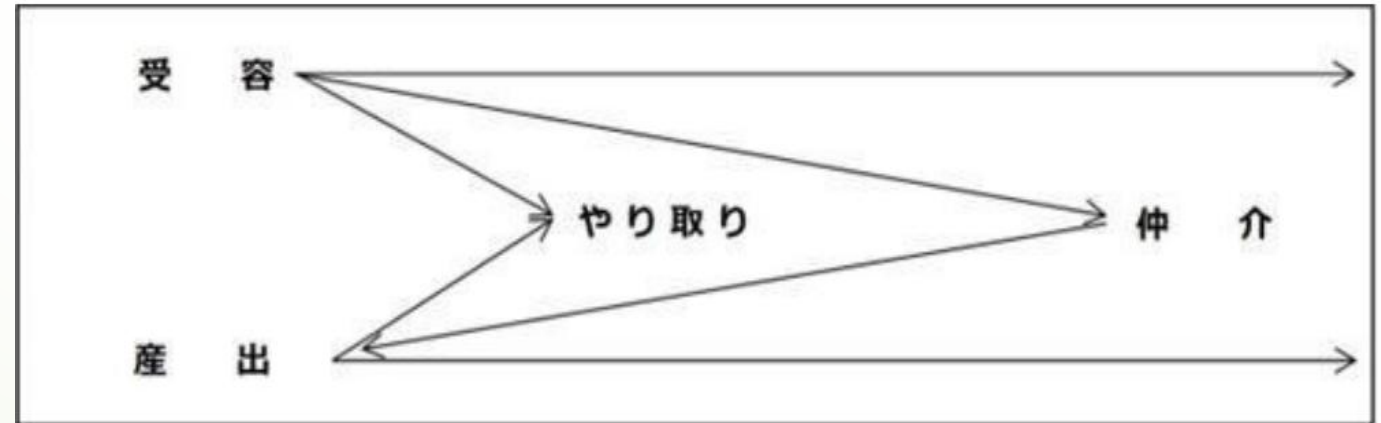


図2 受容、産出、やり取り、仲介の関係

(CEFR-CV 2020=2024 : 15より引用)

3. 授業で用いるには

3.3. CEFR-CVに見る

- ➡ 「仲介活動」と「仲介方略」
CEFR-CV(2020=2024:72)



本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

3. 授業で用いるには

3.4. 小括

- 目に見えぬ「文化」と「仲介」の概念を駆使.
- CEFR-CV(2020)での映画...創作テキストに属する.
 - 学習者に「何らかの反応を引き起こす」(CEFR-CV2020=2024:86)
 - 「反応」には関与、解釈、分析、評価が定義(Ibid.).
 - * 前の2項と後の2項との間で尺度に違い有.
- そもそも映画には「受け手が魅力的に感じるよう、わかりやすく伝えようと編集され」た、送り手による「意図がある」(中橋2018:408).
 - 観賞者が「魅力的」とみなした作品に内包される「意図」への依存
 - : 作品への従属 = 決まった型の感情以外の排斥 = 「反応」も決まった型.
- 「反応」を用いて、可能性を探る → 検討へ.

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

3. 授業で用いるには

3.4.1. 関与と解釈の検討

- ▶ CEFR-CV(2020)における尺度設定のポイント(CEFR2020=2024 : 86より)
 - 何が気に入ったか、作品の何処に興味を持ったかを説明する
 - 誰が最も自分と近いと感じたかを述べつつ登場人物を描写する
 - 自分の体験に作品の諸側面を関係づける
 - 感覚や感情を関連付ける
 - 作品全体あるいは一邪の個人的解釈

→産出活動をプロジェクト課題／パフォーマンス課題とした逆向き設計.

* 2.1.で出した須田(2015)は実践例として大変有効.

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

3. 授業で用いるには

3.4.2. 分析と評価の検討

➡ CEFR-CV(2020)における尺度設定のポイント(CEFR2020=2024 : 87より) :

- 異なる作品同士の比較
- 論拠をもって作品についての意見を述べること
- 創作技術の効果面も含めて、作品の特色を批判的に批評すること

→比較文学・比較文化学的な特徴.

→(再掲) 作品への従属 = 決まった型の感情以外の排斥 = 「反応」も決まった型.

→アダプテーションの枠組みが援用可.

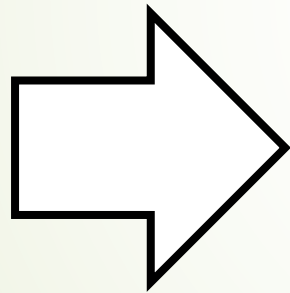
3. 授業で用いるには

3.4.2. 分析と評価の検討

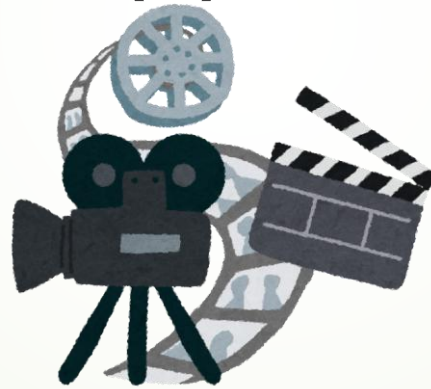
- ▶ アダプテーション理論の援用（文学／文化学から）：

「特定の芸術作品への広範で意図的な公表された再訪」
(ハッチオン2006=2012：210)

作品(A) 原作



作品(A') 翻案



- ・ 差異...(A)と(A')そのもの
(テキストや媒体等)
- ・ 相似...(A')のテーマ
→(A)からの影響

出典：いらすとや <https://www.irasutoya.com/>

- ▶ 従来の文学・文化学研究でのアダプテーション

→前頁の関係図の通り. 翻案が「吸血鬼のようなもの」(同219)

* もし原作至上主義なら、書きことばのみの学習になる. = 文法訳読法.

3. 授業で用いるには

3.4.2. 分析と評価の検討

- 作品(A)と作品(A')の両概念を仲介 = 無理なく吟味しより立体的な見方を.
* 作品数が複数のため、量もある. 一般的な認知度が無いと大変.
- そもそも「上級の中等教育」(CEFR-CV2020=2024:87)での尺度
→ 学習歴を2年程度有していなければ実行は非現実的.

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

4. まとめ

- 本発表の意義は提唱.

: CEFR-CVでの「反応」について、領域横断的に俯瞰する.

- 課題：本発表の枠組みを用いた実践

(1) 候補となる作品の選定 (2) (1)の作品分析・教材化

(3) (2)の結果生じた問いを用いたアクション・リサーチ (4) (3)の検証

* 本発表者の場合、特に(3)と(4)に難有.

- 著作権の問題があるため、(1)~(4)を一挙に行う必要がある.

* 例えば(2)の結果を第三者にほいほい配布するわけにはいかない.

本発表のアウトライン

- ▶ 1. 発表の目的
- ▶ 2. 先行研究レビュー (2.1. 中等教育課程での映画 2.2. ドイツ語教育での映画)
- ▶ 3. 授業で用いるには
 - ▶ 3.1. 高等学校ドイツ語の科目の立ち位置
 - ▶ 3.2. 使用目的の具体化
 - ▶ 3.3. CEFR-CVに見る映画使用
 - ▶ 3.4. 小括
 - ▶ 3.4.1. 関与と解釈の検討
 - ▶ 3.4.2. 分析と評価の検討 – アダプテーションを中心に –
- ▶ 4. まとめ
- ▶ 参考文献一覧

参考文献一覧

阿部知行・池田誠喜（2019）「高校生の道徳的判断の発達を目指した道徳授業」, In:『鳴門教育大学学校教育研究紀要(33)』 51-58.

小澤浩美・幡山秀明（2009）「英語教育と文学的教材 [10] — 映像を活用した英語教育—」, In:『宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要(32)』, 45-52.

菊地一彦・中山勘次郎（2006）「外国映画のリスニングが中学生の学習意欲に及ぼす影響」, In: 日本教育心理学会編『教育心理学研究(54)』, 254-264.

慶應義塾大学編(2024)「外国語の授業づくりの手引き(試行版)」

<https://user.keio.ac.jp/~yamashita/gaikokugokyoten/tebiki.pdf> (2025年3月6日確認)

佐藤信行(1998)「ドイツ語授業におけるひとつの試み—〈ドイツ語学習〉の〈映画〉から〈映画〉の〈ドイツ語学習〉へ—」, In:新潟大学機関リポジトリ『大学教育研究年報(4)』 101-104.

長一真（2020）「『天気の子』を通して考えさせる科学教育について」, In:文教大学教育学部『教育学部紀要(54)』, 279-282.

中橋雄（2018）「ソーシャルメディアにおける「読解力」に関する一考察」, In:『情報の科学と技術(68)』, 406-411.

長谷川智子(2018)「岩波映画〈力のたし算〉と“力の平行四辺形が見えるばね”による合力の学習効果」 In:『日本科学教育学会年会論文集(42)』, 381-382.

参考文献一覧

文部科学省（2018）『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説外国語編』。

山室信高（2017）「CALL用語学教材としての宮崎駿アニメー映画『魔女の宅急便』ドイツ語版を例にー」, In: 東洋大学『経済論集42巻2号』, 143-153.

吉満たか子（2017）「ドイツ語学習における映画鑑賞の効果」, In: 広島大学機関リポジトリ『広島外国語教育研究(20)』, 307-319.

吉満たか子（2018）「映画を使用した中級ドイツ語の実践例」, In: 広島大学機関リポジトリ『広島外国語教育研究(21)』, 199-214.

吉島茂他（訳・編）（2014）『外国語教育Ⅱ 追補版 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』、朝日出版社.

吉島茂他（訳・編）(2024)『言語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠—新能力記述文を伴うCEFR随伴版』、欧州評議会出版部.

ハッチオン・リンダ（2012）『アダプテーションの理論』片淵悦久・鴨川啓信・武田雅史訳、晃洋書房.

JACTFL編(2023)「日本の高等学校等における英語以外の外国語科目の開設状況に関する調査」

https://www.jactfl.or.jp/wdps/wp-content/uploads/2023/11/List_Kanzen_20231104.pdf （2025年2月26日確認）

감사합니다!

多謝！

謝謝！

Баярлалаа!

ありがとうございました！

Thank you!

Danke schön!

Xin cảm ơn!

Je vous remercie!

Grazie!

Gracias!

Obrigado!

Спасибо!

* 連絡先 : shun.ko.0709@gmail.com